

## 令和4年度 第1回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

### 1 日時及び場所

令和4年6月22日（水）10時00分～11時30分

四国森林管理局 3階会議室（ウェブ開催）

### 2 議事概要

#### 【委員会の検討結果】

原木供給は安定しているものの、ヒノキのウエイトが高いため特にスギ3m材を中心に品薄感がみられ、原木価格はスギ3m柱適材を中心に堅調な相場となっている。

一方、製品については、高値で安定しているが、最近ではヒノキ製品の価格高止まりの影響から、より安価なスギ製品へのシフトがみられる。

今後は、輸入材との競合で国産材に一定の引き合いが引き続き見込まれる一方、建築コスト上昇により住宅着工戸数が伸び悩むのではないかととの意見もあり、先行きは読みづらい状況にある。

こういった状況を踏まえ、現時点での国有林材の供給調整を行う必要はないが、今後も市況動向等を注視しつつ需給バランスを見極めていくことが重要である。

#### 【主な意見等】

##### ○ 素材生産業

- ・ 県内29の林業事業体への原木生産に関する聞き取りでは、前年並みと回答した事業体が多かったものの、昨年より作業員の雇用は進んでおり、今後の増産に期待。外的要因がなければ、令和元年度を上回る生産が継続されると推測する。
- ・ 各事業体ともに平年ベースで生産、特に増産傾向は感じられない。急展開は感じられないので、この状況は当面続くと思われる。

##### ○ 原木市場・共販所

- ・ 県内市場の1月～3月の入荷は、コロナ前の令和元年度を上回る動きと聞く。価格については、多少の変動はあるが現在の高止まりの状況が一定続くのではないかと。
- ・ 5月に入って出荷量は減少しているものの昨年度ほどの減少感はない。産地にもよるがヒノキ材のウエイトが多いようで、スギ材は3m材が不足気味。価格は今後の出材状況にもよるが、ヒノキは現状維持若しくは下げ傾向、スギはウクライナ情勢もあり値上がりする要素がありそうに思う。
- ・ 入荷量は横這い。スギは不足感が続くがヒノキは動きが鈍くなってきている。価格

は、スギは高値で推移、ヒノキは年末以降下落したが現在は下げ止まり感がある。

建築コストが高騰する中、木材の動きが順調なのは、外材の代替が進んでいるのもあるが、昨年11月までの住宅ローン減税の駆け込み需要の影響もあると考える。

今後、建築コスト上昇により住宅着工数の減少などのリスクも考えられるが外材の影響を考えると先行きは読みづらい。

- ・ 原木価格の高騰で出材意欲は旺盛。今後は、長雨・台風等天候が素材生産に大きく影響する時期でもあり、需給バランスが崩れる可能性も危惧される。相場は現在落ち着いており、ヒノキについては安定価格で推移しているが4m材の荷動きは悪くなっている。スギについては3m柱口を中心に引き合いが強く、堅調相場を維持。

#### ○ 製材工場等

- ・ 原木調達に関しては、ほぼ安定している。稼働状況もほぼ横這い。製品単価はピーク時より安いものの高値で安定。一部製品では国産スギ材にシフトしているが、注文に対応し切れていないと聞く。ただ、製品の注文は順調にあり、しばらくは好調を維持すると見込む。

- ・ ウクライナ情勢等による直接的な影響、特に外材メーカーの国産材シフト的な動きは現状では顕在化していないが、国産材の安定調達と在庫管理バランスに苦慮。

前年度中に高騰した桧価格が思いのほか高止まりのまま推移している影響で、販売面では相対的に安価な杉へのシフトに傾注。反面、桧製品の動きは高止まりのままでは改善は難しいと考える。

また、米国の住宅事情も住宅価格の高騰によって家が建たなくなれば、今後、国内の木材需給に影響することも考えられる。

- ・ 原木調達は順調であるが、どちらかという供給側の圧力が強く需要側とのミスマッチが起きており、4m材が余り3m材が足りない状況である。雨季に入るので原木調達はこの先少し引き締まってバランスはとれるのではないかと考える。

製品の出荷も順調、価格が上がるほどではないが、年明けからも横這いで推移しているのは、住宅着工が増えているわけではないので、やはり輸入材との競合で国産材に引き合いが出ていないと感ずるが、今以上には輸入材の圧迫と国産材への転換は進まないのではないかと考える。

- ・ 製品は、ヒノキは引き合いが一服。スギは間柱、合板、羽柄材など引き合いが強い。価格上昇により住宅着工の見通しは悪いが、外材の代替、SDGsなどで引き合いは悪くない。